

平成30年度 マロニエ幼稚園 学校評価報告書

平成30年11月

I. 報告者 幼保連携型認定こども園 マロニエ幼稚園園長 佐久間 久枝

II. 趣 旨 平成30年度の学校（幼稚園）評価を実施した結果については、教職員全員において現状（課題や改善事項）を認識するとともに、今後の保育・幼児教育の取組みや運営に生かす改善方策を策定することとした。また、保護者の方々やステークホルダーに公表し、そこでの意見や提言等を反映させていくことを目標とする。

III. 自己点検・評価結果報告

1. 実施時期 平成30年9月

2. 点検・評価対象者 認定こども園マロニエ幼稚園に在職する専任教職員

3. 点検・評価項目

【幼稚舎・保育舎〔共通〕】

- (1) 教育目標・教育方針 (2) 教育課程・指導計画 (3) 教育環境 (4) 行事
 (5) 教職員の役割・資質向上 (6) 特別支援教育 (7) 保健・安全指導 (8) 保護者との連携・情報
 (9) 子育て支援 (10) 運営管理

4. 集計結果

点検・評価項目 (大項目・小項目)	A:よく当て はまる	B:やや当て はまる。	C:あまり当て はまらない	D:全く当て はまらない
I 教育目標・教育方針	86%	14%		
1) わかりやすい	86%	14%		
2) 関係要領等の内容に沿っている	86%	14%		
II 教育課程・指導計画	86%	14%		
1) 教育目標を生かし作成している。	91%	9%		
2) 年齢ごとの当該計画がある。	82%	18%		
3) 当該計画は、見直されている。	86%	14%		
III 教育環境	52%	43%	5%	
1) 園児の関心や興味を取入れる。	55%	41%	4%	
2) 自然や施設を活用している。	36%	50%	14%	
3) 園児の思いや言動を参考にし保育室の装飾や展示を考えている。	36%	64%		
4) 教材、教具を適切に活用している	82%	18%		
IV 行事	58%	40%	2%	

1) 種類や実施回数は適切である。	55%	41%	4%	
2) 乳幼児の活動を明確にし、自主的・実践的な活動にしている	50%	45%	5%	
3) 保護者の要望や意見を取入れている。	77%	23%		
4) 計画・実施・評価・改善 (PDCA) の体制をとっている。	50%	50%		
V 教職員の役割・資質向上	70%	27%	1%	2%
1) 子どもの発達段階や興味・関心に 応じた保育・教育を心掛けている。	86%	14%		
2) 一人一人を大切に受け止めた指導 を心掛けている。	82%	18%		
3) 相手の思いを受けとめ、豊かな人 間関係をつくることのできる子ども を育てるための指導を行っている。	82%	18%		
4) 各種研修会等へ積極的に参加し、 その内容を園内に還元している。	27%	59%	5%	9%
VI 特別支援教育	55%	38%	7%	
1) 当該園児について、教職員全員で 共通理解をはかり、支援体制を整 えている。	59%	41%		
2) 医療、福祉等関係機関との連携が 適切に図られている。	64%	27%	9%	
3) 発達理解を深めるために、自己研 修をし、研修会に参加している。	41%	45%	14%	
VII 保健・安全指導	74%	23%	3%	
1) 避難訓練・交通安全指導を、計画 に基づいて適切に実施している。	86%	14%		
2) 健康・安全な生活に必要な習慣や 態度育成の為、家庭への啓発を行っ ている。	86%	14%		
3) 安全確保の為、家庭・地域社会・ 関係機関等と連携を図っている。	64%	32%	4%	
4) 不審者等に対応する周到な配慮を 行っている。	64%	27%	9%	
5) 園舎・園庭の施設・設備の安全点 検を計画的に行っている。	68%	27%	5%	

VIII 保護者との連携・情報	87%	13%		
1) 寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応している。	86%	14%		
2) 行事予定やクラス便り、HP等、保護者等を対象とした園の情報を。適切に伝えることができている。	77%	23%		
3) 保護者は、園行事に積極的に参加し、協力していただいている。	95%	5%		
4) 園児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。	91%	9%		
IX 子育て支援	80%	20%		
1) 保護者の子育てについて相談にのっている。	77%	23%		
2) 未就園児に対して、園庭を開放したり、園に関する情報を伝えている。	91%	9%		
3) 保護者の要望に応じた預かり保育が実施されている。	73%	27%		
X 運営管理	49%	27%	22%	2%
1) 保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	100%			
2) 園内での役割分担が明確である。	68%	27%		5%
3) 保育舎、幼稚舎相互間で先生方の情報共有及び意見交換ができている。	9%	41%	45%	5%
4) 双方の園児との交流が、保育に生かされている。	18%	41%	41%	

注1) 各点検・評価項目（大項目）の集計結果については、さらに細分化された点検・評価項目（小項目）を総合して、その平均値を算出した。

5. 点検・評価結果及び課題等

(I) 【教育目標・教育方針】

本園の憲章となるべき項目であるが、大項目及び各点検・評価項目の2項目ともに、「よく当てはまる」が86%以上の回答となった。（昨年比：6%増）

(II) 【教育課程・指導計画】

本園の保育・教育の基本となる点検項目であるが、大項目については、「よく当てはまる」が、86%以上となっており、各点検評価項目の3項目ともに「よく当てはまる」+「やや当てはまる」の割合において100%の回答となった。（昨年比：6%増）

(Ⅲ) 【教育環境】

大項目及び各点検・評価項目の4項目については、「よく当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が86%以上の回答となった。昨年度に引き続き、園児の保育・教育に、周辺の自然や施設を有効に活用していることの重要性を十分に認識していることが明らかとなった。(昨年比：-4%減)

(Ⅳ) 【行事】

大項目及び各点検・評価項目の4項目については、「よく当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が95%以上の回答となった。特に、PDCAサイクルを踏まえた行事の取り組みは、保護者の方の意見や要望を反映しながら、次期行事に向けた質の向上を目指すこととしたい。(昨年比：5%増)

(Ⅴ) 【教職員の役割・資質向上】

大項目及び各点検・評価項目の3項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が86%以上の回答となった。また、「各種研修会等へ積極的に参加し、その内容を園内に還元しているか」については、昨年度と比較し約8割以上の教職員が十分であると回答している。今後も、繁忙な業務の隙間時間を踏まえて、研修発表会等を企画運営することについて検討する。(昨年比：-4%減)

(Ⅵ) 【特別支援教育】

大項目及び各点検・評価項目の2項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が91%以上の回答となった。また、「発達理解を深めるために、自己研鑽し、研修会に参加している」については、昨年度と比較し約8割以上の教職員が十分であると回答している。(昨年比：1%増)

(Ⅶ) 【保健・安全指導】

大項目及び各点検・評価項目の4項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が91%以上の回答となった。園内では、リスクマネジメントとして、啓発や訓練等を定期的に行っているが、引き続き定期的に企画運営することとしたい。(昨年比：1%増)

(Ⅷ) 【保護者との連携・情報】

大項目及び各点検・評価項目の4項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が100%の回答となった。例年、保護者の方におかれては園行事に積極的に参加し、協力していただいております。今後ご協力、ご理解を得るようお願いしてまいります。(昨年比：10%増)

(Ⅸ) 【子育て支援】

大項目及び各点検・評価項目の3項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が100%の回答となった。なお、保護者の方から子育てについて相談にのることは、今後も積極的に対応させていただくことが再認識できた。(昨年比：10%増)

(Ⅹ) 【運営管理】

大項目及び各点検・評価項目の2項目については、「良く当てはまる」+「やや当てはまる」の割合が95%以上の回答となった一方で、幼稚舎、保育舎間での園児の交流及び教職員相互間における意見交

換等が十分に生かされていないと教職員の半数近くが回答している。昨年度に引き続き喫緊の課題として、検討していきたい。(昨年比：5%増)

5. 総括

集計結果については、個々人の自己点検・評価の結果であり、評価の度合いが異なるが、本園における今後の課題及び改善点、ひいては発展方策としての事項が明確となっている。

その結果、点検・評価の大項目10のうち、達成できているもの(分類)として、「A:よく当てはまる」「B:やや当てはまる」に位置付けた場合、100%の回答が4項目(昨年比：2項目増)、95%以上の回答が5項目、85%以上の回答が1項目にそれぞれ分類された。また、全体の回答率から判断すると、昨年度と比較して評価の度合いが高まっており、各点検・評価項目については、概ね達成できているのではないかと分析できる。一方、本園の課題や問題点としては、保育舎、幼稚舎間における運営体制において、教職員相互間の情報共有及び意見交換が必ずしも十分ではないこと、また、双方の園児との交流が、保育に生かされていることが十分ではないことが毎年浮き彫りとなっている。このことは、認定こども園のメリットが十分に生かされていないと考えられ、教職員一同が当事者として真摯に受け止めなければならない重要な課題である。

ご挨拶

この度の本園における幼稚園評価の結果については、教職員一同が真摯に受け止め、今後も保護者の方々や関係者の皆さまから様々なご意見、ご要望等を伺いながら、質の高い幼稚園運営を目指していく所存です。

それらの目標を達成させるために、本自己点検・評価システムの構築を目指してまいりたいと考えておりますので、今後とも皆さまのご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。